

福祉ぐんま



特集

P2・3

災害時の福祉支援体制の構築に向けて

つながる福祉

社会福祉法人 植竹会
特別養護老人ホーム ゆたか
ゆたか保育園の皆さん
【関連記事は6ページ】

CONTENTS

P4 平成29年度事業報告・決算概要

P6 つながる福祉 インタビュー
県社協会員紹介

P7 まちの社協レポート ～桐生市社会福祉協議会～

P8 INFORMATION

- 「福祉のお仕事」就活応援セミナーと福祉ハートフルフェア開催
- ふれあい・いきいきサロン研修会開催

携帯サイトは下記のQRコードからアクセスしてください。
(県社協ホームページ)



特集

災害時の福祉支援体制の構築に向けて

～群馬県災害福祉支援ネットワーク

● 災害福祉支援ネットワークとは…

東日本大震災では、地震や津波などの直接的な被害は免れたものの、避難途中や避難先で体調を崩すなどして亡くなった方が3,000名を超え、高齢者や障害者、妊婦、乳幼児など、災害時に特に配慮が必要な方々をどう支援するのといった課題が浮き彫りとなりました。

こうした配慮が必要となる方々に対して、福祉施設や福祉専門職の協力により、福祉的な側面から支援する仕組みのことを「災害福祉支援ネットワーク」と言い、現在、各都道府県ごとに整備を進めているものがあります。

群馬県における災害福祉支援ネットワークの構築状況

群馬県では、平成26年度から、県行政と県社協の協働により、県内18の福祉団体及び2つの広域団体に参画をいただき、「災害福祉支援ネットワーク構築のための検討会」を立ち上げ、群馬県における災害時の福祉的支援のあり方について検討を行ってきました。

そして、『社会福祉施設の災害時における相互応援に関する基本協定書』（平成28年3月29日締結）と『災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定書』（平成29年3月29日締結）を締結し、「施設間相互応援」と「災害派遣福祉チーム（通称：DWAT（Disaster Welfare Assistance Team）の派遣）」とこの仕組みでネットワークを構築しております。

協定の運用に向けて

協定締結後は、関係団体がつながる（ネット）だけでなく、有事の際に機能（ワーク）する仕組みとしていくため、平時から、協定運用のための訓練や研修を計画し、継続実施しています。

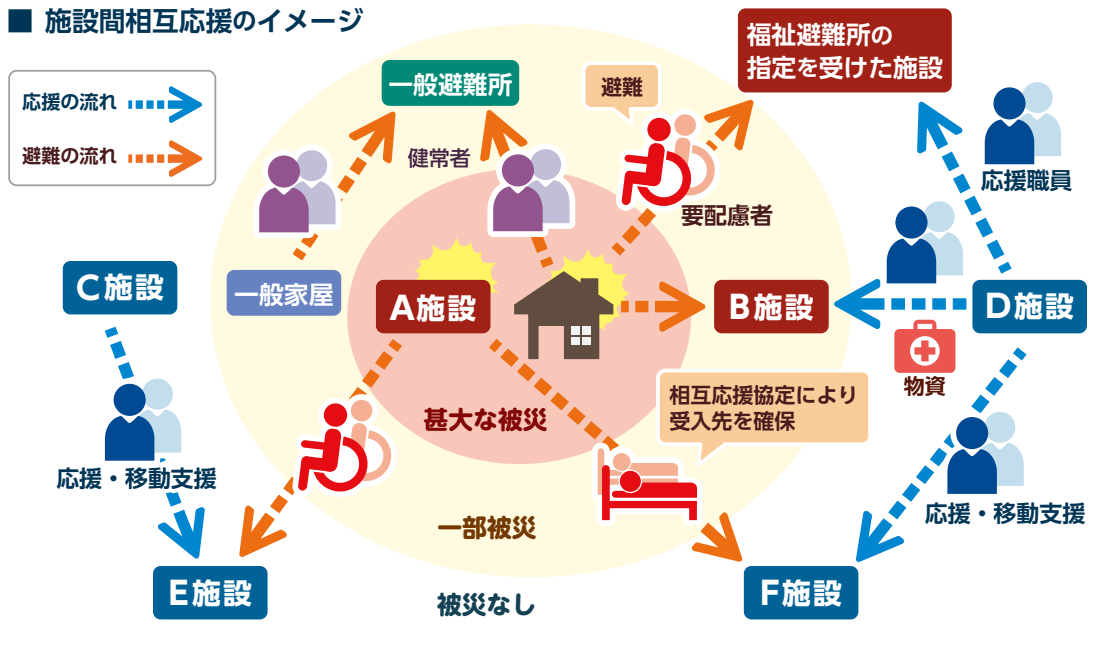


▲相互応援協定 運用訓練の様子



▲DWAT 登録研修の様子

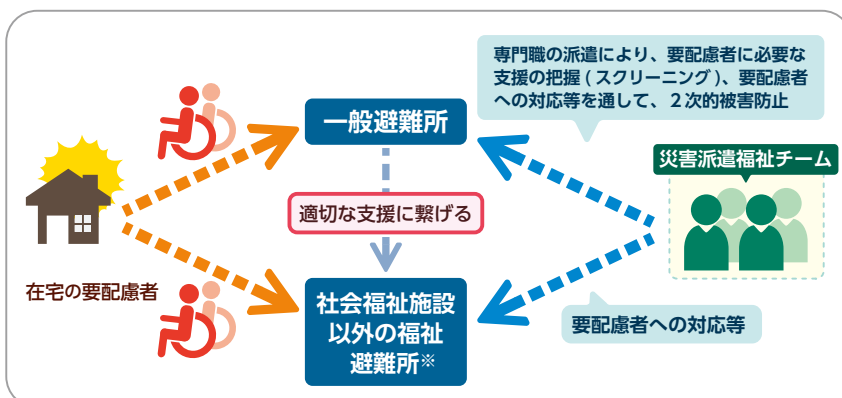
■ 施設間相互応援のイメージ



- 被災施設の運営支援（職員、物資等）
- 被災施設入所者の受入れ

① 施設間相互応援

■ 福祉専門職チーム派遣のイメージ



※福祉避難所に指定されている社会福祉施設では、施設間の相互応援協定（H28.3.29 締結）により、応援職員の派遣等を受ける。

災害発生時にも要配慮者に対する支援を提供できるように支援する仕組みが、災害福祉支援ネットワークにおける福祉専門職派遣チームの仕組み ⇒ 要配慮者に必要な支援の把握（スクリーニング）、対応、ニーズの把握を専門家が行う。

- 避難所等における地域の要配慮者の支援を目的とした福祉専門職チームの派遣
- 施設等の派遣可能職員を事前登録するシステム（現在・136名が登録）
- 登録情報は市町村等関係機関と共有

② 災害派遣福祉チーム（DMAT）の派遣

「相互応援協定」運用に向けた訓練を継続して行う中で、社会福祉施設の防災力強化につながるべく、事業継続計画（BCP）や避難確保計画の策定も含めた体制整備が求められています。

また、「災害派遣福祉チーム（DMAT）の派遣」についても、研修を重ねることで、登録者の実践力を高めるだけでなく、平時からの活動へ転化し、災害に備えた地域づくりを社会福祉施設を中心に関係者の方々と進めていくことが大事になります。

これまで福祉関係団体と共に構築してきたこのネットワークの仕組みを、より有機的なものとしていくためにも、『平時に出来ないことは災害にも出来ない』を合い言葉に、普段から災害時に何に困るのか、どんな支援が必要かを①考える、②イメージする、③気づき合うことを大切にしていくように努めていきます。

今後のネットワークの活動について

平成29年度 事業報告・決算概要

平成29年度は、「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭・地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会」を基本理念とする第2期群馬県社会福祉協議会活動推進計画に基づき、市町村社協や民生委員・児童委員、社会福祉施設、関係社会福祉団体、そして県との連携の下で各種事業を実施しました。その中心となる重点事業の概要は次のとおりです。

1 事業報告の概要

I 地域福祉活動の促進支援

● 住民による地域福祉活動の活性化促進

生活支援コーディネーターの養成研修の実施、市町村の担当者会議、養成研修等企画会議の開催、協議体等の設置に向けたアドバイザーの派遣等

● ボランティア・市民活動の推進、福祉教育の充実

ぐんまボランティアフォーラムの開催、ボランティアコーディネーター研修会、福祉教育セミナーの開催、子育てサロン研修会の開催等

II 災害時における活動支援体制の構築

● 災害福祉支援ネットワークの構築

災害時の相互応援に関する基本協定書の運用に向けた図上訓練の実施、災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定書に基づくチーム員の登録研修の実施等

● 市町村災害ボランティアセンターの機能強化

市町村社協災害支援担当者連絡会議の開催、災害支援・復興支援のための活動助成の実施等

III 生活困窮者等への相談支援体制の強化

● 生活困窮者自立相談支援事業における相談支援体制の強化
県内23町村における生活困窮者支援のための相談支援の実施

● 生活福祉資金貸付制度における相談・債権管理体制の充実
貸付決定件数492件、貸付決定金額129,509,000円

● 地域における民生委員・児童委員活動の一層の推進

民生委員制度創設100周年を記念して群馬大会の開催とハンドブックの作成

● 新たな貸付事業の実施

ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業、児童養護施設退所者等自立支援資金貸付事業

IV 地域における生活支援体制の強化

● 権利擁護事業の強化

日常生活自立支援事業の推進、法人後見専門員養成研修会及び情報交換会の開催

V 福祉人材の充実と定着支援の強化

● 福祉人材確保の安定化・定着化
福祉マンパワーセンターの管理・運営、福祉人材の確保・育成・定着対策の充実・強化等

VI 研修事業の充実による人材育成

● 研修機能の強化
階層別研修、介護支援専門員の実務主任・現任・更新・再研修の実施等

VII 社会福祉法人への支援と福祉サービスの質の向上への取組

● 社会福祉法人・社会福祉施設における経営の強化、障害者福祉施策への取組、社会福祉法人・社会福祉施設への支援、種別協議会活動への支援、福祉サービスの質の向上への取組強化

「群馬県社会福祉法人連絡会・作業部会」の運営、「群馬県ふくし総合相談支援事業」の創設、「生活困窮者支援のための手引」の作成等

VIII 組織基盤と財政・経営の強化

● 事務局体制の充実、財政の健全化と経営の透明性の確保、社協の広報機能の強化、関係団体との連携の強化、社会福祉振興基金の運営
県社会福祉関係予算要望項目のとりまとめ・要望活動、県内の民間社会福祉事業に対する助成事業の実施等

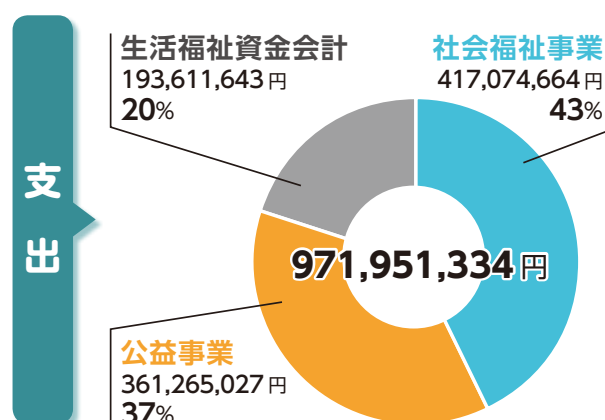
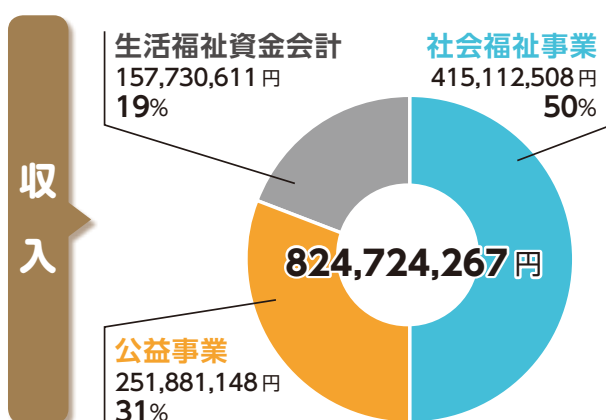
2 決算報告の概要

○ 総合貸借対照表

資産の部		負債・純資金の部	
流動資産	3,263,449,134円	流動負債	129,310,158円
基本財産	10,000,000円	固定負債	2,083,059,120円
その他の固定資産	6,854,449,923円	基本金	10,000,000円
計	10,127,899,057円	基金	1,048,108,523円
		国庫補助金等特別積立金	4,651,132,806円
		その他の積立金	1,996,842,341円
		次期繰越活動増減差額	209,446,109円
		計	10,127,899,057円

3 資金収支計算書

※繰越金等は含んでおりませんので、収支に差が出ています。



● 社会福祉事業

法人運営、地域福祉活動、福祉サービス支援、福祉従事者養成、施設団体等支援、ボランティアセンター、共同募金配分、福祉マンパワーセンター、職員退職積立金、就学援助

● 公益事業

介護福祉士修学資金等貸付事業、民間社会福祉施設等職員共済事業、社会福祉施設整備資金貸付事業、社会福祉振興基金事業、生活困窮者自立支援事業、ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業、児童養護施設退所者等自立支援資金貸付事業、保育士修学資金貸付事業

4 財産の状況

資産	固定資産	6,864,449,923円	負債	固定負債	2,083,059,120円
	流動資産	3,263,449,134円		流動負債	129,310,158円
	計	10,127,899,057円		計	10,127,899,057円



民生委員制度創設100周年記念群馬大会の様子



子育てサロン研修会

★ 詳しい情報は、県社協 HP でご確認ください。



インタビュー つながる 福祉

社会福祉法人 植竹会

特別養護老人ホームゆたか

副管理者 島田 幸治さん

ゆたか保育園

主幹保育教諭 須田 真希子さん

高齢者施設と、保育施設を併設している社会福祉法人 植竹会。群馬県災害福祉支援ネットワークの災害派遣福祉チーム(DWAT)にも登録しているお2人に、昨年初めて実施した水害訓練についてお話をうかがいました。

施設の概要を簡単に教えてください。

(島田 以下(島)) 特別養護老人ホームシヨートステイ、デイサービスセンター、ホームヘルプサービス、居宅介護支援事業所、そして伊勢崎市の業務委託で地域包括支援センター豊受があります。また、隣に幼保連携型認定こども園ゆたか保育園、別の地区にゆたか第2保育園があります。

昨年10月26日に実施された水害訓練について教えてください。

(島) 平成28年度、県と県社協が中心となって災害福祉支援ネットワークが締結されました。その関係団体の中で、実際の法人の中で実地訓練をという話になり、今回の実施に至りました。

訓練の想定は。

(島) この地域は南北を川に挟まれたエリアで、市のハザードマップを見ても床上浸水エリアなのですが、氾濫危険水位を超える前の

タイミングで避難するという想定で実施しました。



ゆたか保育園
主幹保育教諭
須田 真希子さん

良かった点、課題点は。

(須田、以下(須)) 良かった点は、初めての水害訓練で、何もわからない状態から職員同士でよく話し合い、子どもたちにも状況をよく話していたので、本番の訓練でもスムーズに動けたことです。子どもたちも不安がることもなく素直に受け入れていました。

ただ今回訓練に参加したのは一部の園児で、実際にはもっとと大人数を避難させなければならぬので、何度も繰り返しの訓練することが大切だと思います。

(島) 高齢者の方の避難の際にはやはり、人手不足が課題だと感じました。そのあたりは地域の方との連携が大切になつてくると思います。

また火災や地震と違い、水害はある程度予測ができません。早めの判断ができる分、どういった動きが必要なのか、

計画を詰めていくいい材料になりました。また、声掛け一つにしても対象者の特性を考える必要があると感じました。それから、法人、施設ごとに自分が置かれたところのリスクについて分析することも必要ですね。

今後の課題・目標は。

(島) やはり福祉的配慮が必要な方ばかりなので、早めの判断ができるようにしたいですし、現場の職員が無駄なく動ける流れを訓練に反映させたいと思います。そして作った計画に対して訓練を繰り返し、職員も利用者さんも慣れること、また、定期的に実施することで危機管理についてそれぞれが考えられるようになってほしいと思います。

(須) 全職員が訓練を理解すること、あとはいかに速やかに避難できるかという、一番重要なことを徹底すること。指令が出たら反射的に動けるようになるために、いろんな想定を考えていくことが大事です。

同時に子どもたちにも水害の危険性とか、年齢が上がっていくにつれて自分の身を守る力が育っていくよう、お話、紙芝居などで伝えていきたいです。



ぐんまDWAT登録証 ▶

県社協会員紹介

助け合い、支え合う、県社協の仲間を紹介します

群馬県社会福祉法人経営者協議会

本会は、社会福祉施設の経営主体である社会福祉法人にかかわる基本課題を調査・検討すると共にその実践を図る中で、社会福祉の発展に寄与するとの目的から、平成4年に設立されました。

高齢者、障害者、児童・保育等、様々な福祉分野の総意を汲んだ組織として、各種別協議会と有機的な連携を図り、各社会福祉法人が地域の中核機関として、公益性の高い法人経営の実現に向けて取り組んでいます。

群馬県社会福祉法人経営者協議会
会長 南波 和憲



まちの 社協 レポート



各市町村社協の
取り組み、活動を
レポートします

地域に向きます！ 「地区担当制事業」

平成27年度から地区担当制を設け、地区ごとに担当職員を配置しています。職員が、地域に出向き、福祉課題の把握に努め、専門機関との連携により課題解決を目指すことを目的としています。

自治会役員、民生委員・児童委員をはじめ、各種団体の方々にご協力いただき、サロンや介護予防、見守りなど、支え合い活動を推進しています。事業の立ち上げに携わり、参加者や担い手の笑顔に触れるとき、社協職員として最も喜びを感じる瞬間です。

住み慣れたまちで安心して生活できる「支え合うまちづくり」は、住民一人ひとりの温かい心と行動力によって築かれていきます。地区担当職員は、地域の皆様と信頼関係を築き、共に地域福祉を推進することにこれからも情熱をもって取り組んでいきます。

社会福祉法人 桐生市社会福祉協議会

桐生市新宿三丁目3番19号
TEL 0277-46-4165
FAX 0277-46-4166
Mail kiryu-soumu@be.wakwak.com



桐生市社会
福祉協議会
ホームページ



サロンにおいて熱く語る地区担当職員 ▶

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償！！

平成30年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入！！

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)と同じ			
賠償責任	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行幸用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〔SJNK17-16970 2018.1.9 作成〕



お知らせ

「福祉のお仕事」就活応援セミナーと福祉ハートフルフェア（福祉人材確保就職面接会）を平成30年7月7日（土）の同日の午前・午後にヤマダグリーンドーム前橋で開催します。



写真は「ハートフルフェア2017」

「福祉のお仕事」就活応援セミナー

時間 11時～12時30分

会場 ヤマダグリーンドーム前橋 104会議室

内容

- 一部「自分に合う職場の見つけ方」
 - ・らしさ研究所 代表 門野友彦さん
- 二部 福祉現場からの声
 - 「この仕事を選んだきっかけと魅力」
 - ・特別養護老人ホームきざきの郷
津田翔太さん
 - ・障害者支援施設しきしま
角野裕一さん

福祉ハートフルフェア（福祉人材確保就職面接会）

時間 13時～16時

会場 ヤマダグリーンドーム前橋 サブイベントエリア

内容 高齢・障害・児童等の福祉分野への就職希望者を対象とした県内91法人、200以上の施設・事業所との就職面接会

主催 群馬県社会福祉協議会他

費用 無料

申込 就活応援セミナーは群馬県社会福祉協議会（☎027-255-6600）に事前にお申し込みください。ハートフルフェアは事前申込不要です。

平成30年度 ふれあい・いきいきサロン研修会

利根沼田ブロックふれあい・いきいきサロン研修会が平成30年6月13日（水）に利根沼田文化会館で開催されました。民生委員・児童委員をはじめ日頃からサロン推進に取り組む関係者約250名の参加の下、これからのサロン運営について考える機会となりました。

サロン活動のより一層の普及・啓発を図るため、他ブロックでも順次開催いたします。

- 中部ブロック **期日** 9月28日（金）
会場 前橋市総合福祉会館
- 東部ブロック **期日** 10月2日（火）
会場 大泉町文化むら
- 吾妻ブロック **期日** 10月5日（金）
会場 東吾妻町コンベンションホール
- 西部ブロック **期日** 10月16日（火）
会場 高崎市文化会館

問い合わせ先

群馬県社会福祉協議会地域福祉課
☎027-255-6111



利根沼田サロン研修会の様子

福祉ぐんま

編集／発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

*福祉ぐんまは、群馬県社協ホームページでもご覧になれます。

〒371-8525（専用郵便番号）

群馬県前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

TEL 027-255-6033（代表）

FAX 027-255-6173

URL <http://www.g-shakyo.or.jp/>

発行日 平成30年7月1日

あしがき

県内各地で、こどもから高齢者まで様々な居場所作りや支え合い活動が展開されています。そこで、今年2月にオープンした、多世代サポートセンター「にこにこ甘楽」をご紹介します。

町の保健・福祉・介護・国保、社協業務のほか子育て支援センター、地域包括支援センター、保健センター、デイサービスセンター、福祉センターと多世代に向けたサービス機能を有します。

子育てや介護のご相談のほか、おたっしや会、子育てイベントなどを開催したり、日帰り入浴（有料）もご利用いただけます。

「にこにこ甘楽」は、すべての利用者がにこにこ笑顔になれるよう、さまざまな機能を整え皆様をお迎えします。

編集委員 群馬県内社協職員連絡協議会 会長
山田 剛（甘楽町社会福祉協議会）